

## 速い鈍行電車

早稲田大学高等学院 3 年

細谷 俊介

「あーあー、まだ名古屋かよ。」家を出て早七時間、電車はのんびりと西へ向かう。

僕は関東に住んでいるが、実は関西のほうが好きだったりする。大阪の絶品のたこ焼きやU S J, 京都や奈良の社寺。それら以外にも、関西には多くの魅力がある。関東にも同じような魅力はあるはずだけれども、どうも僕には関西のほうがしっくりくる。とにかく、僕が関西を好きなことに間違いはない。

長期休暇の際には、必ず関西へ足を運ぶ。しかし、高校生である僕には、往復二万円以上もかかる新幹線で関西へ行けるほどの財力はない。まして、高一以来バイトをしていない僕にとっては、如何にして旅費を削減できるのかが人一倍重要なのだ。

その際に有効なアイテムが、JRが世間の長期休業期間に合わせて発売している「青春十八きっぷ」である。この切符は、約一万二千円で手に入れることができ、一枚につき五日間、全JR路線が乗り放題になる。言い換えると、この切符を使用すれば、実質約二千円で東京から大阪まで行くことが可能になる。僕も去年まで、この切符を使って全国各地を旅していた。特に、一番好きな地域である関西に関しては、高校に入ってから十回近くは行ったと思う。しかし、この切符は普通電車しか乗ることができない。いわゆる「鈍行電車」である。そんな電車で何度も関西へ行くうちに、僕はその鈍さにいら立ちを覚えるようになってしまった。鈍行電車では、東京から大阪の間で百個以上の駅に止まる。その間に、隣の線路を何本もの新幹線が、稲妻のような速度で駆け抜けていく。鈍行電車の硬い座席に十時間も座り続けていれば、当然疲労も出てくる。とうとう、僕は鈍行電車で関西へ行くことをやめてしまった。そして今年の冬、僕は鈍行電車を裏切って、自転車で大阪へ行く決意を固めた。

当然、周囲からの声は冷たかった。「頭オカシインじゃねえの？」ほとんどの友人が僕にそう言うてきた。しかし、二千円の切符を買って大阪に行くのなら、一層のこと二千円すらかからない自転車で行った方がマシだと、その時の僕は思いこんでいた。

八月九日、僕はロードバイクに荷台を取り付け、そこにテント、着替え、その他諸々の道具を詰め込んだ。一緒に行くと言ってくれた中学時代の友人と共に、朝四時、太陽が顔を出す前に僕らは東京を出発した。「一日目で静岡くらいは余裕だろ。」僕らはその程度にしか考えていなかった。

た。しかし、太陽が昇るにつれ、その希望はあっけなく絶望へと変わっていった。気温は一気に上がり、すっかりその顔全体を露わにした太陽は、まるで僕らをあざ笑うかのように五体を照り付けてくる。山間部では、容赦のない上り坂が僕らを襲う。東京を出て三時間も経った頃には、二千元以内で大坂に着くと豪語していた僕の心は、すっかりその勢いを失っていた。二千九百円。僕がこの日、「飲料水」に費やしたその金額だけでも、電車で大坂へ行くには十分なものだった。

静岡に着いたのは、辺りがすっかり暗くなってから五、六時間が経過したころだった。僕らは河川敷にテントを張って、吸い込まれるように眠った。近くからか遠くからかは分からないが、河川敷に鳴り響く「ガタンゴトン」という鉄橋の音に、多少の嫉心を覚えつつ、そしてどこかまた畏敬の念を抱きつつ眠った。

二日目。一日目の疲労のせいからか、目が覚めた時には既に辺りを太陽が照り付けていた。

僕らは無言でペダルをこぎ続けた。真夏の日照りに耐えながら、いくつもの山を越えた。もうペットボトル何本分の水を飲んだのかもわからない。そんな時だった。僕らの隣を、稲妻のような速度で、自転車を必死にこぐ僕らを貶すかの如く、何かが駆け抜けていった。それはいつもの僕にとっては決して速くは感じないはずなのに、その時は速かった。東京方面から西へと向かう、鈍行電車だった。

結局、自転車をこぎ続けた僕らが大阪に着いたのは、東京を出発してから七十二時間目の朝だった。片道にかかった費用は食費込みで四万円。あまりにも高かった。

電車の偉大さを、身をもって感じた瞬間だった。僕らの力では七十二時間かかるものを、電車はたったの十時間で成し遂げてしまう。

自転車をこいでいる間、僕らの横を我先にと駆け抜けていく電車に対しては、妬んだ回数も敬った回数も数えきれない。

人は失ったときに初めて気づくとはよく言ったものだが、自分でもまさかこんなところで気づかされるとは思いもしなかった。この夏のサイクリング以降、僕はものに対して不満を覚えた時に、考えることがある。「もしもこれがなかった、使うことができなかつたら……。」そうすると、自然とそのものの有難みが分かるものだ。そうしてこの短期間で、多くのものの大切さに気付くことができた。

今度の冬休みも、再び関西へ行こうと思う。たった二千元で、たった十時間乗るだけで大阪に着いてしまう、速い鈍行電車に乗って。

(東京都あきるの市)

【無断転載を禁ず】